

毛織物産業を創始した 人たち

—柴田才一郎と片岡春吉、
墨宇吉・清太郎—



平成26年度 津島藤まつり

歴史文化講座 浅井 厚視

3 柴田才一郎について①

元治元年(1864)長野県北安曇郡会染村生まれ。松本中学校を卒業後、東京職工学校(東京高等工業学校)化学工芸科に入学。明治19年、和歌山・足利で染織工業の指導を行う。

明治28年より、ドイツ・オーストリアに2年間留学。毛織物・絹織物の研究(機織工学)を専攻。イギリス・アメリカを視察。東京高等工業学校教授となり、母校で教鞭をとった。



柴田才一郎氏
肖像
愛工50年史

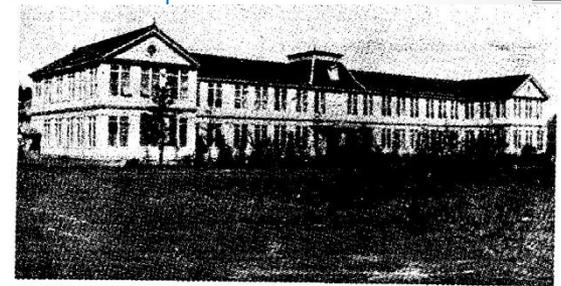
柴田才一郎について②

明治34年愛知県立工業学校初代校長として着任。(この人事は、愛知県令の沖守固が愛知県出身の文部大臣田中不二麿に懇願して実現したと言われている) 愛工には「図案科」「染織科」と共に実習工場があり、この工場で「染色整理」の作業を行った。この工場は、民間工場にも開放したので、工業試験場のような役割を果たした。片岡春吉もこの工場でフランネルの製造を始めたと言われている。一日会主宰。毎月一日に機械工業への切替の必要性を説いた。

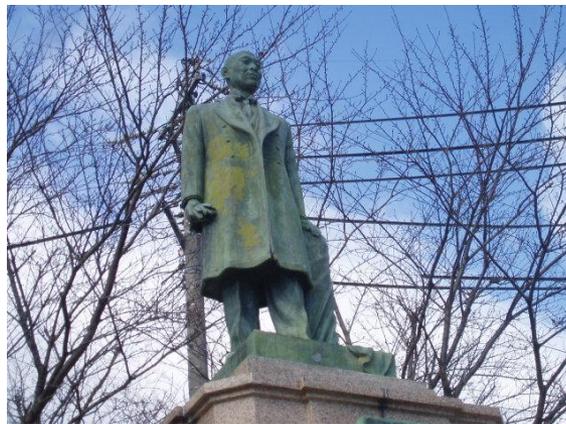
尾四七織芥の指導



愛知県立工業学校初代校長
柴田才一郎



4 片岡春吉について



毛織物業界之父片岡春吉君小
昭和11年 台座の碑文
「片岡春吉君之像」の題字は柴
田才一郎

②28年秋ノ比、愛知県津島町片岡孫三郎氏ニ望マレ、入リテソノ長女志ゲ子ニ配ス。…29年決然旅装ヲ整へ、全国ノ機業地ヲ巡礼視察セシニ、欧米ノ風俗、旺(サカニ)進入シテ、…



毛織物機業の動機

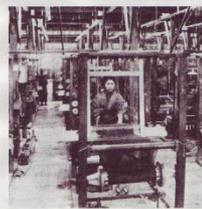
片岡春吉が毛織物業を始める理由として、全国の機業地をまわった結果、「尾張木綿」に代わる適当なものが見つからなかったためと言われてきた。しかし、それ以上に日清戦争への従軍が大きかったと考えられる。



創業者 初代取締役社長 故片岡 春吉

THE BEST SELOE
KATOKAWA WOOLEN STUFF FACTORY
ESTABLISHED IN 1904

個人経営・片岡毛織工場時代の看板



木製・二輪の片岡式織機



毛織物への目を開いた日清戦争
従軍当時の片岡春吉

片岡春吉・江口弥一郎・柴田才一郎

- ・江口弥一郎は愛知工業学校染織科の一期生で柴田才一郎の教え子である。後に機械器具商店『江口商店』を開店し、機械仕上整理機・紡織機械を販売した。「名古屋織物整理・愛知染色整理・内外紡績」などの会社の社長として活躍した。
- ・片岡春吉がドイツより四巾力織機と染織整理機械をドイツのハートマン、イギリスのジョージホジソン両社に発注したとき面倒をみたのが江口弥一郎であった。



江口弥一郎
(昭和四十四年江口家系譜より)



5 墨宇吉と清太郎について



- 宇吉の幼名が「艶屋」(織物の艶打ち 蒲鉾型の石の台で木槌で叩いて、織物の艶出しを行う)の金兵衛であったことから「艶金」と名付けられた。
- 明治22年、「艶打ちものは玉ノ井、仕立は起」という協定のもと、宇吉は独立開業。
- 明治24年、濃尾大震災により工場が倒壊。小信中島に移転。
- (艶金では、紺かすり・木曾川縮を河原でさらす仕事)
- 第5回五二品評会を観覧。

※ 一日会(ついたちかい)

笠松の林鋳(てつ)三郎(丸半商店)・起の渡辺芳次郎が中心となり、機屋・艶屋などが一体となって研究を進めた。柴田才一郎をはじめ、研究者を招いて講演を聞く機会となった。この会に墨宇吉・墨清太郎も常に出席し、知識を吸収し、織物の改良に努めた。

明治35年、宇吉は尾張・美濃織物の染色整理をするため小信中島に新しい工場を新築。

明治38年、清太郎は足利の飯塚啓太郎の下で、整理業の修行を始める。(九ヶ月の修行後、帰郷)



清太郎は、飯塚啓太郎の指導により、足利の工場で数十日ずつ見習いとして働いた。織物整理の秘訣を9ヶ月で学んだ。

「揚柳機」(ようりゅうき 圧搾式ロールによって織物に条痕をつけるもの 機械によって圧搾し光沢を出した)を買い求めて帰郷する。

苅安賀の中野鶴次郎が「純毛二幅着尺セル」の整理を艶金に依頼。清太郎、腐心したあげく、毛焼きして水洗いをした整理。以後毛織物の染色整理の改良を進める。

柴田才一郎・早川熊蔵の指導のもと、愛知県立工業学校の工場の機械で着尺セルの染色整理を行う。

清太郎、京都撚糸再整会社を見学。三本ロール機を考案する。



明治41年、艶金に待望の機械工場が完成。「毛焼機、ドイツ製艶出機、堅蒸器、揚柳機」に清太郎が考案した三本ロール機も設置し、蒸気エンジンを動力とした工場が完成する。艶金は、尾張地方における初めての機械による毛織物整理工場となった。

明治43年、足利の飯塚啓太郎を招く。名古屋で開催された「第十回府県連合共進会」に招待した。尾西地方の毛織物製品・清太郎の機械工場などを見学してもらうのがねらい。飯塚は「わずか4年で足利と尾張とが逆転してしまった」と驚嘆した。

明治44年、「墨合名会社」が設立した。

